

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービス つぼみ		
○保護者評価実施期間	2024年 10月 1日		～ 2024年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 9名
○従業者評価実施期間	2024年 11月 1日		～ 2024年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○訪問先施設評価実施期間	2024年 10月 1日		～ 2024年 10月 31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	3施設	(回答数) 2施設
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 27日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日頃から療育で関わっている支援員が訪問に伺うことで、より丁寧な情報の共有ができる。	療育的な視点と教育や保育とそれぞれの視点を大切にしながら、実情に合った支援や相談に応じるようにしている。	それぞれの立場がもつ強みを認識し、対象児童の過ごしをより豊かにするための話し合いと情報の共有を続けていく。
2	長年のお付き合いの中で、一定の信頼を頂いていると感じている。その中でより内容を深めたお話をすることが出来ていると思う。	訪問先の担任の先生方と一緒に考えるという気持ちを持って、訪問支援にあたっている。	引き続きお話を伺うという気持ちの中で意見を交わし、共通理解を図る様にする。
3	支援の現場で見たものや感じたところ、思いや希望も含めたものをまとめ、その都度報告書を作成とお渡しをしている。	保育現場、教育現場は常に動き、変化を繰り返していることを意識した助言やアドバイスを行っている。	現場は日々動いているという視点を忘れないでいく。訪問時間内の支援だけではなく訪問記録も活用頂けるよう、可能な限り、早いうちに記録の作成とお渡しができるよう努力する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	必要な人員を確保した上で事業を行っているが、時間と人員的に余裕がない。	職員の人数に限りがある為、動きに制限がかかってしまっている。	引き続き今後も安定的に支援が継続されるよう、限られた人員の中であっても、動き方の工夫を積極的に行う。
2	療育理念、支援方針、方法が一般化しにくく、児童の心の動きに注目したものが中心になっている。	強みでもある反面弱みでもあると言える。日々成長する児童に対して心の読みとりは重要であるが、目に見えないものであり一般化、数値化することが難しい。	心の動きへの注目は必要であり、その加え構造化など一般化できる視点での助言等も行い、バランスの良い支援が行えるようにしていく。
3	事業所での活動は個別対応が中心であり、訪問先での支援環境との違いが大きい。	弱みというよりも必要な支援として考えた上で、どう訪問先の支援に範疇化していけるかといったことを考える。	支援環境の違いを理解した上で、保育環境に応じた支援、助言が行える為に、事業所での個別支援を行っていく。